



**YAMAHA S-1 SLALOM GRAND PRIX 2013 FINAL in Nishiura**  
YAMAHA S-1 SLALOM GRAND PRIX 全国選手権大会



# 2013 YAMAHA S-1 11/17(SUN) in NISHIURA AICHI スラロームグランプリ全国選手権大会開催!!

■お問合せ先 ヤマハ発動機株式会社 国内マリン事業部 中部販売課 TEL:0533-66-3421 www.yamaha-motor.jp/marine



今年のS-1グランプリ大会はマリンショップアルファ西浦店で開催された。



西浦店は今年オープンしたばかりで、とても清潔感のあるマリーナである。



大型の昇降クレーンも完備されており、ゲレンデへのアクセスも簡単だ。



AM8時、受付スタート。全国から集まった参加者で会場が賑わいをみせる。



開会式ではヤマハ発動機の渋谷敏郎氏より、参加者に向けて挨拶が行われた。



今年のプロスキークラスシリーズチャンピオンの山本陽平選手も大会に参加!!



ランナビウトの絶対王者砂壱肇選手も、来場。会場を沸かせていた。



開会式では出場選手による選手宣誓が元気に行われた。



ライダーズミーティングでは注意事項や確認点が入念に説明されていた。



じゃんけん大会では砂壱選手が登場!! 人気商品争奪戦を盛り上げていた。



会場では歓喜の声と、悔しそうな声が入り交じり大盛り上がり!!



その他にも美味しいカレーライスやラーメンのお店が設置されていた。

今回ご紹介するのは真のマリンジェット乗り日本一を決める『2013 YAMAHA S-1 スラロームグランプリ全国選手権大会』。この大会は本来10月27日に開催予定であったのだが、台風の影響により11月17日(日)に順延となっていた。そんな大会当日の天気は晴れ、そして何より海面のコンディションが抜群に良い。風も殆ど吹かず、絶好のS-1日和となったこの日、大会会場となったマリンショップアルファ西浦店には全国各地から沢山のPWCライダー達が集まって来た。早朝8時

の受付前には各方面で挨拶する声や談笑する声が聞こえて来て、この大会が全国各地のマリンジェットファン同士の交流の場にもなっていることを実感する事が出来た。そして今回大会の会場となったのは、愛知県蒲郡市にあるマリンショップアルファ西浦店!!ここは今年オープンしたばかりで、クルージング拠点としてもお勧め出来る今注目のスポットだ!!また、会場には今年全日本プロスキークラスシリーズチャンピオンに輝いた山本陽平選手やランナビウトの絶対王者砂壱肇選手の姿もあ







プロライダー登場のジャンケン大会は豪華景品競争で大盛り上がり!!



S-1グランプリともなると参加者の応援にも熱が入る。皆さん真剣な眼差しでレースを見つめる。



出場したライダー達も自分の走りが終わった後も、ライバルの走りを真剣に見つめていた。



レース会場を歩いていると、アフロの少年を発見!! サングラス姿もとてもクール。



自分の出番が近づいて来たら、ヘルメットを装着し、いよいよ準備完了!! 戦闘モードに突入だ!!



やはりライバル選手のタイム、スキルは各選手気になる。じっくりと観察する姿が多く見られた。



カンマ1秒を争うレースでは、正確にタイム計測され、そのタイムに選手達の一喜一憂が現れる。



山本陽平選手の走行時にはその美しいフォームと高いスキルに会場から多くの歓声が沸いていた。



砂盃選手のモンスターマシンでの走行は、まさに圧巻の2文字。驚きの声がしばらく鳴り止まなかった。



走行後には砂盃選手のマシンが陸上で公開された!! 参加者は興味津々にマシンの中を見つめる。



SKIクラス 優勝 北澤 勝也 選手  
2位 関 泰光 選手 3位 佐野 信一 選手



RUNABOUT1クラス 優勝 鈴木 克昌 選手  
2位 星野 正貴 選手 3位 平田 泰史 選手



RUNABOUT2クラス 優勝 小倉 光人 選手  
2位 中村 俊雄 選手 3位 古出 進 選手



FXクラス 優勝 宮崎 悦男 選手  
2位 小鳥 洋典 選手 3位 岡崎 佑一 選手



VXクラス 優勝 坂巻 貴志 選手  
2位 増田 広康 選手 3位 新井 雅博 選手



表彰式は終始賑やかに行われ、会場のあちこちで笑い声が飛び交っていた。

り、全国大会を盛り上げてくれていた。山本選手は切れ味鋭いコーナーリング技術と、非常に綺麗なフォームを披露してくれ、それを観ていた参加者からは大きな歓声が上がっていた。そして砂盃選手は、自慢のマシンでの走行を披露してくれたのだが、こちらもまた凄かった!! もの凄い加速で一気にコースに入ると、トルクの効いた圧巻の走り、そんなマシンを乗りこなす技術を惜しげも無く披露してくれたのだ。そんなプロライダー達の活躍により、会場は大きな盛り上がりを見せていた。そもそも、S-1のコースというのは左右のターンが交互に繰り返されるコース(IJBSA公認コース)を使用する競技なのだが、ひとつひとつのコーナーでは、その時の速度や角度によって攻略方法が異なり、実は単純な交互のターンと済ませてしまう事は出来ない程に、このレースは奥が深いのである。そしてレースはタイムトライアルで行われ、最も早くゴールした人が勝つという点だけとはとてもシンプルなのである。スタートからゴールまでの約20数秒の間に繰り返される熱い戦いは、観ていて全く飽きる事なく夢中になってしまう魅力を持っている。今大会にエントリーした人数は計60名でこのイベントが全国的に盛り上がりを見せている大会という事はこの数字を観ればスグに分かると思う。今年もカンマ数秒での熱い戦いが繰り返されたS-1グランプリ全国大会。20数秒に込められたドラマに沢山の人が笑ったり、悔しがったりと様々な表情を見る事の出来たとても素晴らしいイベントとなっていた。